

科目「高校 音楽Ⅰ」シラバス

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広くかかわる資質・能力を育成し、他者に対しての『思いやり』『優しさ』『愛すること』の大切さを相互に創造する音の世界を通じて伝える。

1. 教科到達目標

曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現のために必要な技能を身に付けるようにする。	自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながら曲の良さや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。	主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく心を養う。
--	--	---

評価の内容

楽譜を見て音程、言葉のリズム、テンポ、表情等を把握してしっかりとした歌声・楽器で楽しく演奏する工夫をしていること。抑揚や特徴、雰囲気を知覚し、自らの表現として作品として成立したものを創造できているか。音楽を形作っている要素を感じとり、それらの働きが生み出す雰囲気を感じ取りながら、表現しようと工夫していること。

2. 科目の到達目標と評価の観点

	単位数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
(教科名) 音楽 (科目) 高校音楽Ⅰ	2 単位	第 1 学年	教科書：高校生の音楽 1 (教育芸術社) 大妻指定の音楽ノート ソプラノリコーダー アルトリコーダー
学習の到達目標	歌唱、器楽、鑑賞などの音楽活動を通して、音楽の仕組みや音楽への興味や感心を養う。		
評価の観点	<知識・技能> 楽曲の内容や曲想に関心を持ち、音楽表現を工夫して主体的に取り組もうとしている。		
	<思考力・判断力・表現力> 曲想を感じ取って音楽表現を工夫し、どのように演奏するかについて、思いや、意図を持っている。		
	<主体性・多様性・協働性> 楽曲の内容や曲想を生かした音楽表現をするために、必要な技術や技能を、身に付けている。		

【点数化が難しい課題については、観点別評価とする。】

A：「十分満足できる」状況と判断されるもの	・・・	100%
B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの	・・・	80%
C：「努力を要する」状況と判断されるもの	・・・	60%
D：未提出，未実施	・・・	0%

2. 学習計画及び評価方法等

月	単 元	学習のねらい	学習のポイント，使用教材等
年間授業計画例	【歌唱】 『翼を下さい』 『少年時代』 『春への憧れ』 『Caro mio ben 』 『ハナミズキ』 『美女と野獣』	・発声、呼吸法、『Messa di voce』を伝える。 ・積極的に歌う姿勢を大事にしイタリア語、ドイツ語、英語の発音の方法を舞台語として実践する。	・色味のある情感豊かな歌声は、詩の内容を理解した、理性のある歌声の醸成。 ・胸式呼吸と腹式呼吸の違い。 ・歌唱における口蓋垂の働き。 ・RとLの決定的な違いを例に、具体的な外国語へのアプローチ。 ・音の中に存在する、言葉に対するアプローチ。
	【器楽】 『愛の挨拶』 『美女と野獣』 『歌の歌唱テスト』 『笛、器楽のテスト』	・ソプラノリコーダーで演奏 ・アルトリコーダーで演奏 ・自身の持つ楽器で演奏(ヴァイオリン・チェロ・オーボエ・クラリネット等) ・『歌』と『器楽』、同じ曲を扱うことで、生き生きとした歌える音を見つける。 ・歌・器楽と共に実技テストとして、1学期の曲の中から自身で選曲し発表する	・ソプラノリコーダーおよびアルトリコーダーの運指の確認。 ・サミングで変化する音を感じ取る。
	【鑑賞】 『レ・ミゼラブル』 『マイ・フェア・レディ』	・ミュージカルを鑑賞し、作曲家が影響された芸術家を推察する	・ブロードウェイミュージカルと、劇団四季や宝塚歌劇団、日本のオペラ団体の歌声や芝居を考察する。